
mails

ミズキシホ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

mails

【Nコード】

N5346C

【作者名】

ミズキシホ

【あらすじ】

こんな出会って素敵ですか？

一通の手紙が届いた。

「同期会を開催いたします。」

という内容。

場所と日時が書かれている。

懐かしく読み進んでいったアタシは、
差出人の所へさしかかってフリーズしてしまった。

「K市立L高等学校 同期会

幹事 鷺木 一和」

……だれ……？

慌てて封筒を見る。

あて先は、アタシの名前。
町名も番地も合っている。

が……、

ここはM市……。

封筒にはK市と……。

郵便番号は書かれていない。

郵便屋さんよう！しっかりしておくれよ！

こんなことが起こり得るものの……？
やれやれ……。

とはいえ、
封も開けちゃったことだし、
電話を入れてやろうか。

さて、
ハテ、、

連絡先の電話番号が書かれていない……。

もーっ！ 鷺木！（呼び捨て
用事足りないでしょ、これじゃー！！

本日二度目の、
やれやれ……。

さあ、どうしようか。

アタシは、
しばし迷ったものの、
同姓同名の「アタシ」が、
自分にだけ案内が来ない……、と悲しむだろうし、
鷺木も困るだろうし、

（実はこれが一番の理由なんだけど）

ヒマだったから、

鷺木に手紙を書くことにした。

手紙を書くなんて行為、
いつぶりだろう？

「鷺木様

このたびは、同期会の案内をありがとうございます。

が、

私の住所は「M市」です。

K市の同じ町の同じ番地に、
わたしと同じ名前の方がいらっしゃるんですね。

まさかの誤配でM市の私の元へ届いてしまいました。

私もちやんと確認もせず開封してしまいましたので、
こうしてご連絡差し上げています。

お手数ですが、

私と同姓同名のその方へ、もう一度案内を送って差し上げてくだ
さいね。

蔵井 凧子」

数日後、また手紙が届いた。

差出人は、

鷺木だ。

「蔵井様

このたびはご丁寧ありがとうございます。
誤配なんてあるんですね。

郵便局も民営化になるやらでてんやわんやなのでしょうか。

それはさておき、

K市の蔵井さんには案内を発送しましたので、ご安心ください。

同封した写真は、

先日僕が撮ったものです。

あまりにも綺麗だったので。

では。

鷺木 一和」

同封された写真は、

夕暮れ、なのか、

金色に光が溢れる海辺の写真だった。

郵便局が民営化でてんやわんや、
なんて、

なかなか面白いじゃないか鷺木、

とボンヤリ考えながら、

アタシはその写真から目が離せないでいた。

そしてアタシはペンを取る。

「鷺木様

私と同姓同名の蔵井さんに案内を送られたということなので安心しました。ありがとうございます。

てんやわんやの郵便局も、

今回は私の所へは誤配しないようです……笑

写真、とっても素敵ですね。

ずいぶん長いこと見入っていました。

アタシも何か、と思ったのだけど、

近頃は携帯電話やパソコンでやり取りするので、なかなか現像する機会がなくて。

この前見つけた四葉のクローバーでも貼っておきます。縁起がいいのかどうなのかよくわからないけれど 笑

蔵井 凧子」

そしてまた数日後。

「蔵井様

四葉のクローバー、ありがとう。

縁起のいいものだと思うことにしています。

こちらの蔵井さんは、

同期会に出席してくれるそうです。

案内がちゃんと届いたようでよかった。

同封した写真は、

僕の愛犬です。

鷺木 一和

「鷺木様

そちらの蔵井さん、出席されるんですね。

よかった。

楽しんでください。

愛犬、かわいいですねー！

ではアタシの愛犬の写真を。

（ひさびさに写真を現像しました。

パソコンや携帯電話の画面で見るとやはりいいですね。）

蔵井 凧子

こうしてアタシたちは、

時代に逆行して、
メル友ならず、
「ペンフレンド」となった 笑

という話を、
行きつけのバーで話していたら、
鳥本さんが来た。

鳥本さんはこの店で知り合って親しくなった人だ。
それ以上の付き合いはないけれど、
面白いし、カッコいいし、
ちょっとイイナ、と思っている。

前に、
この店の常連さんたちと海に行った時、
家が割と近いということで送り迎えをもらった。

「こんにちは。
鳥本さん、この前はありがとうございましたー。」

「イエイエ。」
「いま、みんなにも話していたんですけど、
手紙が誤配されて、
それ以降、そのひととアタシ、
ペンフレンドなんですよ 笑」

「そのうち恋が芽生えたりして 笑」

「ナイナイ！」

『庭の畑でトマトが取れました』とか、

『うちのイヌの変な寝顔写真です』とかですよ 笑」

「いいじゃない 笑 楽しそだよ、凧子さん 笑」

「鳥本さん、凧子さん、

ハイ、これ、この前の海の時の写真です、どうぞ。」

お店のマスターが写真をくれた。

「あら、ありがとう！

楽しかったね、海！」

顔なじみもやってきて、

旨い酒と、

楽しい会話で夜は更けていく。

そして数日後。

「蔵井様

先日、海へ行きました。

日焼けし過ぎてまだヒリヒリしています。

その時の写真です。
左から二人目が僕。

鷺木 一和」

えっ……？
これって、

鳥本さんでしょ……？！

ええええ？？？

鳥本さんへメール。

「この前話したペンフレンドからまた手紙が来たのだけど、
同封されていた写真がこの前の海の時のもの。」

あの手紙って鳥本さんだったの？！」

鳥本さんからメール。

「そう 笑
いつ気付くのかなと思って 笑
ゴメン、そのうちに言い出しにくくなってしまった 笑

僕の名前は、「鳥本和路」。
「鷺木一和」をバラバラにしてもう一度組み立ててごらん。」

鳥本さんへメール。

「えー！そうだったんですか！
でも、一通目の手紙は？
K市ってなっていたのに。」

鳥本さんからメール。

「消印なんて見ないと思ったからそれらしいのを押して、
水でぼかしておいた。
見なかったでしょ？ 笑
一通目は自分で風子さんちのポストに入れに行っただ
笑」

鳥本さんへメール。

「ええっ！
鳥本さん、芸が細かいよ！
まったく気付かなかった……。
でも、なぜ？」

鳥本さんからメール。

「風子さんに興味があったから 笑」

うーむ。

他の人だったらどう思っただろう？

アタシは……、

コ洒落たひとだと思っ
笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5346c/>

mails

2010年10月28日05時20分発行